

■ 平成 29 年度 第 1 回 新潟市スポーツ推進審議会

日時：平成 29 年 8 月 28 日（月）午後 3 時 30 分から

会場：じょいあす新潟会館 3 階「ローズ」

（司会：寺崎）

本日は、ご多忙の中平成 29 年度第 1 回新潟市スポーツ推進審議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきますスポーツ振興課の寺崎と申します。よろしくお願いいたします。

まず、会議に入る前に資料のご確認をお願いします。資料は、本日机にお配りしたものと、先日郵送しご持参をお願いしたものがございます。本日机の上にお配りした資料は、次第、次に席次表、出席者名簿、資料 1 「平成 28 年度の実施事業進行管理調書（抜粋版）」、資料 2 「実施計画（Ⅱ期）【平成 29 年度～平成 30 年度】（案）」、資料 3 「指標及び実績の年度間比較」、そして「2017 新潟ヒルクライム」のチラシと「2017 オリンピックデーラン」のチラシ。以上です。

次に、事前に郵送した資料ですが、「平成 28 年度実施事業進行管理調書」、「実施事業（Ⅱ期）【平成 29 年度～平成 30 年度】（案）」、以上の 2 点につきましては、本日お配りしたもので会議を進めますので、この場では使用いたしません。続いて別途ご持参をお願いした資料が、新潟市スポーツ推進計画第 2 次「スポ柳都にいがた」プラン、そして同プランの概要版です。資料は以上です。不足等がありましたら、お申し付けください。

本日の出席委員についてですが、委員 18 名のうち 11 名の委員の皆様から出席いただいております。過半数の出席を得ておりますので、新潟市スポーツ推進審議会条例第 7 条第 2 項の規定により、本会は成立いたしますことをご報告します。

また、本日の会議は、議事録作成のため録音をさせていただいておりますので、ご承知おきください。なお、本日、傍聴者お二方、それから新潟日報の取材が入っておりますので、併せてご承知おきください。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、渡邊スポーツ振興課長がいさつを申し上げます。

（事務局：渡邊）

皆様、お疲れさまでございます。新潟市スポーツ振興課の課長の渡邊でございます。今日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、今年度第 1 回の新潟市スポーツ推進審議会ということで開催させていただきます。

この夏もそろそろ終わりという時期でございますけれども、この夏は、新潟にとって、いろいろなスポーツの話題があったかなと思います。甲子園では、日本文理高校が新潟市のチームとして3年ぶりに出場して1勝されたということで、また大井監督が今季限りということで、そういった意味でも大きく新聞等でも報道いただきまして、新潟市のスポーツに対する新潟市民の皆さんの関心が高まったのではないかと思います。

もう一つ、少し残念な話なのですが、アルビレックス新潟が、今J1であまり成績のよくないところに位置しているわけですが、4万人のスタジアムの観客満員をもう一度ということで、アルビレックス新潟のスタジアム満員プロジェクトが組まれたということで、市役所の私どもでもそれにぜひ協力いたしましょうということで、先週の金曜日から、少々遅まきながらというところもあったのですが、職員がユニフォームを着て仕事をするというようなことで、毎週金曜日に取り組み、J1残留を願って皆で応援しております。それと併せて、これまで14シーズンJ1に残っていただいたということも、これまでの功績というものがいかに大きかったのかということが、逆に今感じられるということでもあります。そういったことにも感謝をしながら、これからも応援していきましょうということで取り組みを始めたところです。

そういった形で、新潟市の市民の皆さんのスポーツに対する意識がかなり向いた夏だったのではないかと考えております。実は、私どもではこれから来年度の予算編成の時期に入りますので、東京オリンピック・パラリンピックに向けてのさまざまな事業を展開していく中で、新潟市民の皆さんの注目を集めるような事業を行っていくということが、やはり最終的には新潟市のスポーツ振興につながっていくのではないかと考えておりますので、そのあたり、皆様からさまざまなご意見を伺いながら来年度の事業も組み立てていきたいと思っております。

また、本日の内容としましては、「スポ柳都にいがたプラン」実施計画の昨年度の評価と、今年度、来年度の実施計画の策定についてのお話をさせていただきます。このあたりについても、皆様の忌憚のないご意見をいただきながら、よりよいスポーツ環境を整えていければと思っておりますので、ご協力のほどよろしく願いいたします。今日は、少し長丁場になりますが、この後の時間もあるということでございますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(司会：寺崎)

続きまして、新潟市スポーツ推進審議会の西原会長よりごあいさつをお願いいたします。

(西原会長)

皆さんこんにちは。今日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとう

ございます。

今ほど課長からお話がありましたように、本日は、二つの議事があります。一つは、前年度、平成 28 年度行われた実施計画の事業の評価について、それからもう一つは、これからの実施計画について、皆さまからご審議いただきます。ここに至るまで 2 回の会議が行われまして、その会議の中で議論されたことが本日上がっておりますので、ぜひそれぞれの専門的な立場から忌憚のないご意見をいただければと思っております。なお、本日は、新潟大学の学生さんが実習に来ているということをお聞きしました。

また、先ほど課長からもありましたように、オリンピック・パラリンピックが 2020 年にあります。1 回目のオリンピックが東京で 1964 年に行われましたけれども、そのときは、日本は高度経済成長ということで一つのきちんとした柱があって、それに向けてのオリンピックということで非常に分かりやすかったのですけれども、昨今のスポーツ環境は非常に多様化しています。そのような中で、この新潟市のスポーツ審議会の中でこういったプランを考えていくという、非常に難しいことではあるのですが、それぞれの方々から専門的な意見を伺って、素晴らしい審議会にして、いいプランを育てていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(司会：寺崎)

ありがとうございました。

議事に入る前に、前回 3 月に開催した審議会以降に新たに選任された委員を紹介させていただきます。新潟市小学校体育連盟の阿部潤委員です。

(阿部(潤)委員)

皆さん、こんにちは。新潟市小学校体育連盟副会長を仰せつかっております阿部潤と申します。山田小学校です。よろしくお願いいたします。

(司会：寺崎)

よろしくお願いいたします。

また、本日から 2 週間、インターンシップで新潟大学の学生がスポーツ振興課で実習を行っておりますので、紹介いたします。

2 名につきましては、本日、この場で事務局員として業務に従事しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。審議会条例第 6 条第 3 項に基づき、議事の進行を西原会長にお願いいたします。

(西原会長)

それでは、さっそくお願いします。会場が広くて、私、ひな壇に上げられて非常にやりに

くいのですけれども、どうぞよろしく申し上げます。

それではさっそくですが、議事の（１）「第２次『スポ柳都にいがた』プラン実施計画平成 28 年度実施事業評価について」、事務局から説明をお願いします。

（事務局：養田）

それでは、事務局から説明させていただきます。新潟市スポーツ推進計画第２次「スポ柳都にいがた」プラン実施計画平成 28 年度実施事業の評価についてです。

はじめに、本市のスポーツ推進計画について、振り返って簡単に説明させていただきます。本市のスポーツ推進計画が策定されたのは平成 17 年度で、当初は平成 18 年度から平成 26 年度までを計画期間としていました。これが第１次「スポ柳都にいがた」プランであり、本市のスポーツ推進計画でした。市民が、いつでも、どこでも、だれとでもスポーツに親しみ、楽しむことができる「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」の実現を基本理念として、市民の二人に一人が週 1 回スポーツや運動を行う割合、これをスポーツ実施率として、それを 50 パーセントにすることを到達目標としていました。第１次プランの最終年度、平成 26 年度には、47.7 パーセントで、おおむね目標を達成することができました。

平成 27 年度からは、第１次プランの基本理念や基本方針をそのまま引き継いで、平成 34 年度までを計画期間として第２次「スポ柳都にいがた」プランがスタートしました。これについては、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした取り組みや、障がいのある方のためのスポーツ推進などの新たな視点を加えて、市民の週 1 回以上のスポーツ実施率 65 パーセントを到達目標としています。この計画に取り組むために策定されたものが実施計画であり、平成 27 年度から平成 28 年度を第 I 期実施計画として、以降 2 年ごとに策定することとしました。ここで実施計画の事業評価と推進にあたり、本スポーツ推進審議会の中で「スポ柳都にいがたプラン推進会議」というものを設置しまして、この審議会から選出されました 6 名の委員から実施計画事業の実績評価をしていただき、本日のスポーツ推進審議会でご意見をいただきながら事業の進行管理を行うこととしております。

議題（１）の平成 28 年度実施事業の評価については、所管課による 1 次評価と、当審議会での 2 次評価について諮るものです。なお、2 次評価については、6 月 29 日に「スポ柳都にいがたプラン推進会議」で評価をしていただきまして、その結果を基に審議会の皆様からご意見をいただければと思います。

それでは、資料 1 の進行管理調書（抜粋版）をご覧ください。この資料につきましては、第 I 期実施計画に記載された事業の平成 28 年度の 1 次評価と 2 次評価が記載されています。2 次評価については、このスポーツ推進審議会での評価となりますが、6 月 29 日にこの審議会から選出されました 6 名の委員により評価をしていただいております。抜粋版ということ

ですが、所管課がスポーツ振興課ではない事業については、それぞれ別の課が所管する計画等により評価を受けていますので、当スポーツ推進審議会では評価をいたしません。そういったことから、事前に送付させていただいた資料から関係課所管事業を省いたものが抜粋版であり、当審議会では評価を受けるものだけを抜粋しております。

なお、6月29日の「スポ柳都にいがたプラン推進会議」から実績値を訂正した事業が1点あります。2ページのNo.7「氷上スポーツ体験学習推進事業」について、会議のときは実施校数を実績56校としていましたが、55校と訂正させていただきます。大変失礼しました。

1ページをご覧くださいますと、項目について左から事業名、事業内容（取り組み結果）となっており、その次から所管課による1次評価となっています。平成28年度の数値目標と、それに対する実績が記載されております。それを踏まえた達成度を所管課で評価しております。達成度については、四角に注釈がありますが、Aの「指標を上回って達成」からEの「無着手」までの5段階評価となっています。次に、事業の方向性については、1の「充実」から7の「その他」まで、全部で7段階となっています。所管課による評価の次の項目が、新潟市スポーツ推進審議会による評価となっています。これが、2次評価です。評価については、3の「順調に取り組まれている」から0の「早期に取り組む必要がある」までの4段階で、この審議会から選出された6名の委員から一旦いただいた評価の内容を記載しております。

本日は、事前に資料を送付させていただいておりますので、事業名、事業内容、1次評価、2次評価について、1事業ごとの説明は省略させていただきます。進行管理が思わしくないもの、評価の低いものを中心に、基本方針単位で説明させていただきます。基本方針については、左上の囲み部分をご覧ください。ここでは、基本方針・基本目標が記載されております。基本方針は、「健康スポーツ：生涯にわたるスポーツ活動を推進します」とありますが、この健康スポーツに関しては、1ページとその裏の2ページに記載されております。

それでは、健康スポーツ、1、2ページの11事業をご覧ください。この11事業について、所管課による1次評価の達成がB以上の事業については8事業、逆にC以下の事業については3事業あります。C以下の事業についてですが、ナンバー4の「早起き野球大会」、これについてはエントリー数185チームの目標に対して163チームの実績なので、所管課の評価はCとなっております。同様にナンバー7「氷上スポーツ体験学習推進事業」についてです。これについては、実施校数70校の目標に対して実施校数55校の実績ですので、所管課の評価はDとなっております。残る一つはナンバー10の「市民サッカー大会」で、エントリー数100チームの目標に対して87チームの実績でしたので、所管課の評価はCとなっております。

次に、審議会による2次評価についてです。11事業のうち3の順調に取り組まれていると

の評価が9事業です。2ページのナンバー7「氷上スポーツ体験学習推進事業」のみが、評価1のより積極的な取り組みをお願いするとなっています。体育の授業で取り組んでいるのではなく、校外活動に留まっているのが現状であり、競技のきっかけづくりにしてほしいとの意見をいただきました。その他、2のおおむね取り組まれているという評価がナンバー10の「市民サッカー大会」でした。人数の関係でチームがなかなか組めないような現状にあるが、これをフットサルに転換するなど、より多くの方が参加できるように検討してほしいとの意見をいただきました。

6ページをご覧ください。「競技スポーツ：競技力の向上を推進します」と基本計画にありますが、これについては全3事業です。このうち、所管課による1次評価の達成度がB以上の事業は2事業、逆にC以下は1事業となっております。ナンバー2の「スポーツ指導者講習会」についてです。講習会開催回数2回120人の目標に対して、1回開催70人という実績でしたので、所管課の評価はCとなっております。

審議会による2次評価については、3事業のうち二つが順調に取り組まれているとの評価で、一つが2のおおむね順調に取り組まれているとの評価でした。1次評価と同様に、ナンバー2の「スポーツ指導者講習会」が2の評価でありましたが、テーマについて受講者のニーズに沿ったものを選択すべきとの意見をいただいております。

8ページ、9ページをご覧ください。「みるスポーツ：みる機会、交流機会の拡大を図ります」と基本方針にあるものについてです。全9事業あります。このうち、所管課による1次評価の達成度がB以上の事業については3事業、C以下の事業は5事業、平成27年度単年度で事業が終了したものが1事業ありました。評価C以下の五つの事業についてですが、まず8ページのナンバー3「第40回日米野球選手権大会の開催」についてですが、観戦者数2試合1万人の目標に対して実績が8,500人だったので、Cという評価になっています。併せてナンバー4「大会合宿誘致の推進」についてです。ナショナルチーム合宿3件の目標に対して、実績が2件でした。

9ページをご覧ください。ナンバー6の「氷上スポーツイベント開催事業」については、参加者数610人の目標に対して実績が584人でした。ナンバー7「オリンピックムーブメント事業」については、参加者数1,500人の目標に対して実績が317人、ナンバー8の「国際ユースサッカーin新潟の開催」については、観戦者数3日間で6,000人の目標に対して実績は3日間で4,00人と、いずれも目標に対して実績が下がっているためC以下の評価となっております。

続いて審議会による2次評価については、全9事業のうち3及び2の順調に取り組まれている及びおおむね取り組まれているが全部で四つ、1の積極的な取り組みをお願いするが四

つありました。平成 27 年度単年度事業が一つでした。1 の評価、積極的な取り組みをお願いするとなっているものについては、8 ページナンバー 2 の「プロ野球招致推進事業」で、複数回の開催を望むとの意見をいただいております。ナンバー 4 の「大会、合宿等誘致の推進」で、競争が激しい中において、アイスアリーナで大学ホッケーなど、本市の特色からターゲットを絞って集中して招致に取り組むべきとの意見をいただきました。9 ページのナンバー 6 の「氷上スケートイベントの開催事業」については、体験会の開催頻度を月 1 回くらいの頻度で企画を増やしてほしいとの意見をいただいております。ナンバー 7 の「オリンピックムーブメント事業」では、他の開催都市をライバルと想定して、積極的に参加者を増やすべきとの意見をいただいております。

11 ページ、12 ページをご覧ください。こちらは、基本方針「支えるスポーツ：スポーツを支える環境を構築します」とあるものについてです。この柱にぶら下がる事業は七つありますが、このうち所管課による 1 次評価の達成度が B 以上の事業は 5 事業、逆に C 以下の事業は 2 事業となっております。C 以下の事業の実績についてですが、12 ページのナンバー 6 「スポ柳都にいがた指導員養成研修会」について、参加者数 100 人の目標に対して実績が 70 人、ナンバー 7 「スポーツボランティアの育成」についてですが、シティマラソンのボランティア公募数 100 人の目標に対して実績が 65 人と、いずれも目標に対して実績が下回っているため C 以下の評価となっております。

続いて審議会による 2 次評価についてです。全 7 事業のうち、3 の順調に取り組まれているとの評価が二つ、2 のおおむね順調が四つ、1 のより積極的な取り組みをお願いするとの評価がナンバー 1 の「スポーツボランティアの育成」の一つでした。これは、中学生などの学生に体験してもらうなど、より積極的な取り組みをお願いするのご意見、評価をいただいております。

15 ページをご覧ください。基本方針「スポーツ情報ネットワーク・スポーツ医科学支援体制」についての 3 事業です。このうち所管課による 1 次評価の達成度が B 以上の事業については 3 事業、すべてでありました。C 以下の評価はありませんでした。

審議会による 2 次評価については、全 3 事業のうち二つが 3 の順調に取り組まれているとの評価でした。ナンバー 1 の「目指せオリンピック！医科学サポート事業」については、まだ活用が進んでいないので 1 との評価でした。県の医科学センターを有効に活用すべきとの意見をいただいております。

早足での説明になりましたが、(1) の事業評価については以上になりますので、資料 1 抜粋版の平成 28 年度のスポーツ振興課所管事業の実績や評価について、ご意見等をいただければと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。今ほど、昨年度の評価の報告をしていただきましたが、皆さんから何かご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

(太田委員)

今ほどは説明をありがとうございました。猫山宮尾病院の太田でございます。

みるスポーツのナンバー4「大会、合宿等誘致の推進」というところで、私どもの診療のところにも誘致されたナショナルチームの選手の方が来られて、アイスアリーナでやっているという生の声をいただいたのですけれども、大変アリーナの環境も大変良いとおっしゃっていたのですが、宿泊施設やその周りの生活の面で、自転車でない移動ができないとか、ご不便だというところがありますので、長期滞在されるわけですので、そのような環境も整えてあげると、より誘致しやすくなるのではないかと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。あの辺はスポーツゾーンということで集中していますが、その辺は、特に計画などは。

(事務局：渡邊)

ありがとうございました。あのあたりは、アイスアリーナ、市民病院があつて、猫山宮尾病院もあつて、ちょうどウェルネスゾーンになるということで、今、ビジネスホテルといいですか、ホテルが近くに一つあるかと思います。今お話があつたように、合宿でアイスアリーナにいらしている、具体的に言うとショートトラックの選手だと思いますが、皆さん、あそこのホテルにお泊りになって、食事も食育花育センターに食べに行かれたりしているようです。やはり少し距離が長くて、どうしても自転車で移動という形にはなってしまうと思うのです。

では、すぐ脇に宿舎とか、そういったものがあればよりいいのではないかとということもあるでしょうけれども、あの辺りというのはさまざまな規制などもある中で、今のところ私ども市では特にそういったものを造るという予定はないということなのですけれども、ある程度、病院もそうですが、民間の施設が張り付いていくような形になっている中で、そこにある程度のメリットがあれば、民間の方の投資というものも今後考えられていくのではないかと考えております。

そのためには、やはりアイスアリーナの利用も、もっと活発に利用されるような形になっていけば、そういった需要も出てくるのではないかとということも考えられますので、私どもの施設の活用をいかに進めていくかというような問題にもなってくるかと思いますので、そこはすぐに明日明後日どうという形にはならないかもしれませんが、長いスパンの視

野の中でうまく回っていけるようになればと考えております。

(速水委員)

今のご意見に関連してなのですけれども、ナショナルチーム等へ、新潟にこういう施設がありますからぜひやってくださいみたいな感じで誘致に行くような計画とか行動とか、そういうものはあるのですか。

(事務局：渡邊)

ありがとうございます。ナショナルチームの合宿誘致、国際大会、あるいは国内でもそうですが、全日本級の大会とか、そういったものの誘致については、実は新潟市文化スポーツコミッションという組織がありまして、新潟市長がその会長をやっているのですけれども、その新潟市文化スポーツコミッションが誘致活動の最前線に立って一生懸命やっております。その成果として、先ほど申し上げましたショートトラックの合宿であるとか、昨年であれば日米大学野球がECOスタジアムでありましたけれども、そのような大会などは、その文化スポーツコミッションが積極的に誘致してきたというところでございます。

そういう意味では、市のスポーツ振興課が市長部局として積極的に誘致に動いているかという、我々単独では今動いていないのですけれども、文化スポーツコミッションと連携しながら動いているような形をとっています。文化スポーツコミッションというのは、あくまでも市の機関ではなく外部の機関ですので、ある意味で思い切った誘致活動ができるかと思っておりますので、あるいはさまざまところにセールスに出掛けて行くということも可能かと思っておりますので、そういった機動力の高さをうまく活用して、そういったお話があれば、私どもでも当然誘致の活動にかかわっていくというような態勢を今組んでやっております。

今後、東京オリンピック・パラリンピックに向けての大会もそうですし、平昌の冬季オリンピックがもうすぐありますけれども、そういったものに対してもいろいろと活動をしていくということです。これもすぐにたくさんの成果がぱっと出てくるような話ではないのですが、地道な形での文化スポーツコミッションと連携した活動が徐々に実を結んでいくのではないかと考えております。その辺りは、そういった活動をやっているということをご承知おきいただければと思います。

(小島委員)

日和山小学校地域教育コーディネーターの小島です。

一つ質問なのですが、新潟マラソンのスポーツボランティアの育成ということで、シティマラソンのボランティアを公募していますが、実際に沿道では地域のコミュニティ協議会とか各地区のスポーツ振興会でも人を集めていて、実際に私もあちらでも声をかけられこちらでも声をかけられ、私の身は一つですと皆さんに言いながら、今年はスポーツ振興会で一応

積極的に協力させていただくのですが、この公募して集まってくださったボランティアというのは、地域の方たちには振らない場所だから競技場の中であったり、実際にボランティアをする場所を明確にしてあげると、きっと集まったりするのかなとも思ったりしたのですが、実際にどのような形で公募しているのかを教えてください。

(事務局：田中)

ボランティアへのご協力、ありがとうございます。

新潟シティマラソンのボランティアは、コースの沿道で給水ですとか走路の監視をやっていただく方がメインで人数的には3,000人弱、それから陸上競技場やビッグスワンの会場内でも200、300人という、割合的にはほぼコース上でのボランティアが占めるのですが、コース上のボランティアは、今小島委員がおっしゃったように、地元の方を充てさせていただいております。この理由としましては、マラソン当日、交通規制がかかった中で、いろいろなところから集めた方がコース上まで行く足がないということで、地元の方で歩いたり自転車で行けるような方にコースの管理をお願いして、一般公募で集まっていた方については競技場内で、公共交通機関を用いても移動ができるところでの業務をお願いしております。

ですので、マラソンでボランティアというと、やはり給水というものをイメージされるかと思うのですが、一般公募の方ももしかしたら沿道で給水だったらもっと集まってくれるのではないかと思うのですが、競技場でのお仕事となると受付的なものであったり、ゴール後の給水ですとか、記録証を配るとか、そういったものに限定されてしまうので、不人気だという理由の一つには沿道での活動をなかなかお願いしづらいという事情があるのかもしれない。これが東京マラソンなどになりますと、大会開催中に地下鉄でいくだけでも移動ができるので、沿道のボランティアも一般公募の方をお願いしているようです。また、そういったものを新潟の交通事情ではなかなか取り入れづらいということがあり、今のところ一般公募の方には競技場内での参集しやすいところでの業務をお願いしております。

(小島委員)

もう1点。実は、コミュニティ協議会に頼むと、どうしてもご年配の方々が大変多くて、2年間、3年前でしたか、何キロというものを持ってくれているおじいちゃんが動いてしまうということが下の方では起っていました。そういうことで、一昨年からミニバスケットの若いお父さんやお母さんがしっかり持つということになったのですが、それは歳では決められないけれども、とてもしっかりした方がいるので、やはりコミュニティ協議会であったりスポーツ振興会であったり、取り仕切っている方がきちんと人選して、適材適所でランナーの皆さんが困らないようにできるといいと思っているので、多分、今後ボランティア

さんたちにお話しされていくと思いますので、その辺、お願いします。

(事務局：田中)

ありがとうございます。確かにランナーにとって距離表示のプラカードは非常に大事で、それが励みで走っておられると思うのですが、やはりプラカードを長時間持ち続けるというのは高齢の方だとなかなか難しいかと思い、距離表示のプラカードの方にはなるべく体力のある若い方をお願いしますという声を上げ始めておりますので、中間に入ってボランティアを集めてくださる皆様には、そういったお知らせをしております。ありがとうございます。

(西原会長)

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。評価についてはよろしいですか。では、もしありましたら、最後の総括でお願いします。

続きまして、議事の(2)です。「第2次『スポ柳都にいがた』プラン実施計画第Ⅱ期平成29年度から平成30年度まで」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：養田)

資料2をご覧ください。資料2が、第2期「スポ柳都にいがた」プランを推進するための別の計画となっております。以後「実施計画」として説明させていただきますので、よろしくをお願いします。

1ページ目をご覧ください。全体の構成について説明させていただきます。1ページ目は目次となっております。2ページから5ページについてですが、基本計画である第2次「スポ柳都にいがた」プランについて記載されています。基本計画自体に変更はありませんので、実施計画においては、この部分は第1期実施計画と同様の記載になっています。2ページは、基本計画の基本理念である「スポーツに満ちた明るく豊かな新潟市」の実現を目指すために具体的な事業や取り組みを第Ⅱ期実施計画において示すという内容を記載しております。3ページをご覧ください。3ページについては、基本計画の基本方針と基本目標を記載しています。1として「健康スポーツ」、2として「競技スポーツ」、3として「みるスポーツ」、4が「支えるスポーツ」と四つの柱を掲げて、それを取り囲むようなイメージで「スポーツ情報ネットワーク及びスポーツ医科学支援体制」を掲げています。4ページについては、基本計画における到達目標を記載しています。平成34年度までに、週1日以上スポーツをする市民の割合を65パーセントに上げることを掲げています。5ページは、基本計画及び実施計画の期間が記載されております。基本計画は新潟市の総合計画であります「にいがた未来ビジョン」に体系づけられておりますので、「にいがた未来ビジョン」と同じ平成27年度から平成34年度までの8年間を計画期間としています。第Ⅰ期実施計画については平成27年度、平成28年度の期間でしたので、今回の第Ⅱ期実施計画については平成29年度、平成30年度

の2か年間となります。

6ページ以降につきましては、具体的な事業や取り組み内容を記載しています。全体的な構成としては、基本方針、基本計画の単位で括ったうえで、それぞれスポーツ振興課所管事業とそれ以外の関係課所管事業に分けて列挙しています。6ページから8ページが健康スポーツに関するもので、基本方針は「生涯にわたるスポーツ活動の推進」です。9ページはみるスポーツに関するもので、基本方針は「みる機会、交流機会の拡大」です。11ページと12ページは支えるスポーツに関するもので、基本方針は「スポーツを支える環境の構築」です。13ページが、スポーツ情報ネットワーク及びスポーツ医科学支援体制となっております。

14ページからは、参考ということで記載させていただきます。それぞれ8区役所の区ビジョンまちづくり計画の第2次実施計画を列挙しています。14ページから17ページまでは、区の事業を掲載しております。最後の18ページから23ページをご覧ください。こちらは、指定管理者が行う自主事業について記載しています。第Ⅰ期計画においてはそれぞれ基本計画の基本方針の中に括って関係課の欄に充てていましたが、第Ⅱ期計画からは、参考ということでこちらに一括りにして記載しております。なお、第Ⅰ期計画では新潟市開発公社が行う事業だけを上げておりましたが、市内体育施設は新潟市開発公社のほかにも指定管理者がありますので、第Ⅱ期計画からは新潟市開発公社以外の指定管理者が行う自主事業等についても参考までに掲載させていただいております。以上が、実施計画の構成になります。

なお、事前に送付させていただきました資料について修正点があります。本日配布した資料と異なる部分がありまして、指定管理者の自主事業についてです。18ページをご覧ください。新潟市開発公社が行う自主事業については、ナンバー8の「卓球大会」からナンバー11の「フラダンス発表会」まで、事前に送付した資料にはなかったのですが、その間に追加しています。これにより全体のナンバーを振り直していますので、事前送付資料と相違があります。また、秋葉区スポーツフィールド運営グループが行う事業、ナンバー24についてなのですが、「ニュースポーツ振興交流会」の内容が変更になりました。また、ナンバー25の「ノルディックウォーキング」の追加もありましたので、こちらも事前に送付させていただいた資料と異なっております。

今回の第Ⅱ期の実施計画についてです。第Ⅱ期実施計画の策定に当たっては、第Ⅰ期計画における実績や1次評価、2次評価を踏まえ、指標の部分を現状に沿って見直し、第Ⅰ期計画を変更したものを案として提示させていただきました。完了した事業は除いて、新規の事業を加えて、それ以外は指標を修正して、基本的には第Ⅰ期計画を踏襲する内容となっております。そのため、実施計画Ⅱ期の案とは別に、A3判で資料3というものを用意しております。

資料3の指標及び実績の年間比較という資料をご覧ください。こちらの資料について説明させていただきます。第Ⅰ期計画の指標・数値目標と平成27年度、平成28年度の実績を見ていただいて、そのうえで第Ⅱ期計画、平成29年度、平成30年度の指標・数値目標についてご意見をいただければと思います。本日の会議では、基本方針、基本目標の単位で区切って、それぞれご意見等をいただければと思います。

それでは、A3判の指標及び実績の年間比較、資料3をご覧ください。この資料の項目についてですが、一番左に「柱」と記載したものは、基本方針を略したものです。「新ページ」は、第Ⅱ期実施計画のページを指しております。資料2の実施計画のページを指しております。「ナンバー」、「事業名」、「所管課」と続いて、第Ⅰ期実施計画の指標・数値目標を平成27年度、平成28年度とそれぞれ記載しています。その隣になりますが、全体の中ほどの平成27年度と平成28年度の実績、それから1次評価、2次評価を記載しております。第Ⅰ期計画の指標・数値目標と実績及び1次評価、2次評価を見比べていただいて、そのうえで一番右の列が今回の第Ⅱ期計画の指標・数値目標となっております。なお、所管がスポーツ振興課となっているものについては、「スポ柳都にいがた」プランに位置付けられているものですが、所管課がそれ以外の関係課となっている場合は、それぞれが所管する別の計画によって数値目標等が位置づけられておまして進行管理することになっておりますので、2次、委員評価の欄が空白になっております。ほかの計画に位置付けられておりますので、空白になっております。本日は、スポーツ振興課所管の事業についてご意見等をいただければと思います。

A3判の資料3の1ページ、健康スポーツの1番「新潟シティマラソン」から11番「新潟県障がい者スポーツ大会開催事業」までをご覧ください。この中で、平成28年度の数値目標に対して平成28年度実績が下回って所管課の評価がC以下になっている事業があります。3番の「早起き野球大会」、6番の「氷上スポーツ体験学習」、9番の「市民サッカー大会」です。

3番の「早起き野球大会」は、平成28年度の数値目標、先ほど申しましたが185チームのエントリーに対して、実績は163チームでした。これを踏まえまして、第Ⅱ期実施計画の数値目標は、現状維持ということで160チームに修正しています。

6番の「氷上スポーツ体験学習」については、平成28年度の数値目標実施校数70校に対して、実績が55校でした。委員評価は、1のより積極的に取り組みをお願いするようになっておりましたので、これを踏まえ、第Ⅱ期実施計画の数値目標は、積極的に70校としています。

9番の「市民サッカー大会」については、エントリー数100チームの目標に対して87チームの実績でしたので、第Ⅱ期実施計画の数値目標は、現状を踏まえ86チームと修正していま

す。健康スポーツについては、以上です。

(西原会長)

ありがとうございました。まず、全体の構成と、それから健康スポーツについて説明をしていただきましたが、ここまででご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

(小島委員)

一つ質問ですが、早起き野球のチーム数がなかなか増えないということなのですが、実際、やはり野球世代というのがある程度年齢が高くなってきていて、参加しているチームの平均年齢というか、若い世代が増えているかどうか。若い世代が増えない限りはチーム数が増えていかないと思うので、その割合などは分かりますか。

後でもいいです。

(事務局：渡邊)

ありがとうございます。その辺のデータまでは、今持ち合わせていないので、そういったものがあるかどうかも含めて、我々も主催者なのですが、実行委員会が主催になっていますので、そちらにも確認してみたいと思います。

(小島委員)

実際にチーム数を増やしたいとなったら、今、若い世代どんどんサッカーに流れているので、野球でチームを増やすのは難しいのかなと思っているので、若い人たちが早起き野球に出て何か大きなメリットが得られるような仕掛けなどがあると、また変わってくるのかなと思うのです。

(事務局：渡邊)

早起き野球について少し関連して言いますと、やはりそういった若い方の発掘といいますか、そういうことも大事だと思いますし、それから年々歳をとられて、チームも段々年齢が高くなっていくチームが多くなっていくのですが、そういったチームでも辞めないで続けられるような、そういう仕組みも必要のかなと思います。それこそが、まさに生涯スポーツの目指すところでもありますので、そういった工夫も、今後大会の運営の仕方として考えていきたいと思っています。

(小島委員)

ありがとうございます。

(目黒委員)

「市民サッカー大会」なのですが、スポーツ審議会からフットサルを含めて大会をという意見があったと思うのですが、やはり冬場を考えた場合、屋内でできるフットサルというのは有効だと思うので、実績を踏まえて数は同じとなっているのですが、

そういう検討なりはされたのですか。

(事務局：鈴木)

今、実行委員会で検討はしております、今ほどのフットサルにという部分についてはまだ検討はしておりませんが、やり方といいますか、クラス別に分けたり、それからシニアを増やしたり、女性を増やしたりとかということについては実行委員会で揉んでやっておりますので、少し増えてくると思うのですが、とりあえず今のところは予算的なこともございますので、まず、現状のまま進めていきたいと思えます。

(西原会長)

これは、ちょうど7月ですか。スポ柳都にいがた推進会議が7月くらいで、その意見はまだ十分反映できていないと思うのです。

ほかにどうでしょうか。

(速水委員)

今、早起き野球が減っているということがありましたけれども、やはり昔、もう20年、40年前くらいは、1,000チームに届くかなという時代があったのです。それがどんどん減ってきました。でも、ほかの種目の普及というか、そちらもかなり増えてきましたよね。昔は、女性というとママさんバレーがもの凄かったのですけれども、それがテニスになり水泳になり、いろいろなものが、施設があれば自分たちが好きなところに好きな時間に行って好きなことをやっているというようになってきたので、一概に一つの種目のチーム数、参加数が減った、ではどうするのだということにはならないと私は思っているのですけれども、その辺はどうでしょうか。

(事務局：渡邊)

ありがとうございます。まさに委員のおっしゃるとおりだと思いますけれども、参加チーム数が減るということは、一概に悪いことではないのかもしれませんが、やはり指標の一つとして、当然減るよりは維持なり増えていったほうが良いとは思えます。ただ、競技する種目の多様化というのは、特に今、実際の流れとしてあるわけですので、その辺りも含めて、それこそ「スポ柳都にいがた」プランの最終的な目標というのは、市民のスポーツをする方が全体の65パーセントを達成することとしておりますので、要はより多くの方にスポーツに親しんでもらう、実施してもらおうという方向に行くということが最終的な目標ですので、そこに向けての組み合わせといいますか、その中での話になるかと思えます。そういった形で単にチームが減るということを、すなわちだめだというような評価をしていただかないような形で、また別の見方で見ていただくのは、私どもとしても大変ありがたい話でございます。最終的な目標を何とか達成するようということやっていきたいと思えます。

(太田委員)

種目に関してなのですけれども、ナンバー10の「市民総合体育祭」です。第Ⅰ期のところで、春季、秋季で種目数が18、25というところ。そして参加数は、第Ⅱ期になりまして徐々に増えてきているところなのですけれども、次の平成29年度、平成30年度のところでは、春季の種目が20、秋季が30というように多少の変化があるのですけれども、その種目について具体的にどういうものかお教えいただけますでしょうか。

(事務局：鈴木)

今、私ども市体協の加盟団体で50くらいの競技団体がありますが、各種目の中で春やる競技もあれば秋やる競技もあります。

種目としては、バスケや野球のような球技系から剣道・柔道などの格技系やニュースポーツなどがあります。

(太田委員)

ニュースポーツは、例えば。

(事務局：鈴木)

今日、インテアカ協会の田村さんもいらっしゃっていますが、他にもターゲットバードゴルフやゲートボールなどの種目がございます。

(太田委員)

そういうところで参加者を増やすということで、65パーセントというところにつながるという目論見があると理解してよろしいのですね。

(事務局：鈴木)

そうですね。

(太田委員)

おっしゃるとおり、チーム数とかそういうことではなく、やはりお一人お一人がしやすい環境の、よりそういう種目を選択していただけたらと思います。

(西原会長)

先ほど目黒委員からフットサルという話とか、それから速水委員、太田先生からもご意見をいただきましたが、今、どんどん新しい種目が出てきたりしているので、いろいろ多様なスポーツというものを、長期的にですけれども、取り入れることが大事だと思いますので、引き続きご検討いただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

私からなのですけれども、氷上スポーツはなかなか稼働率が上がらないというところがあって、実はこの中でも実施校数を70校に増やしているのですけれども、阿部先生にお聞きし

ますが、小学校などで、授業とかいろいろな活動の中でできる可能性があるのかどうか、教えていただきたいのですが。

(阿部(潤)委員)

うちの学校は行っております。ただ、やはりカリキュラムマネジメントの観点から、いわゆる授業時数ですね。体育にしても時数が削られますし、ほかにもいろいろな協力してほしいとか、こういう教育をやってほしいというものが学校にくるのです。当然今日的課題で、例えば主権者教育とか、認知症のサポーターの教育とか、それから消費者教育とか、いろいろきている中で、やはりどこの学年がどの時期に余裕を持っていけるかということを学校で判断した場合に、それぞれ学年だったり担任の考え方があって、運動会でたくさん時数を使ってしまったので厳しいかなということもあるでしょうし、もともとスポーツが大好きな場合はそのように手を挙げるのですけれども、やはり一概には難しいかなという思いがします。やはりそこに価値はあるし、私どもの学校では、PTAでも行っているくらいに大変喜んで行っているのですけれども、行き帰りの時間などもありますし、なかなか難しい問題かなと思っています。

(西原会長)

ありがとうございます。近い小学校は行っているのですか。比較的近いところだと、アクセスがいいですね。そういうことも関係しているのでしょうか。

(阿部(潤)委員)

その辺は、私が把握できていないのですが、私どもはバイパスに乗ってすぐなのですが、それぞれの学校の考え方があるのだと思います。

(小島委員)

児童数の規模にもよりますよね。一つの学年のクラスが多ければ、送迎バスが限られているではないですか。学校が自分でお金を出さなければ、バス代を出さないといけないのか、送迎バスに来ていただいて交通費を浮かせられるのか、それも大きな問題だと思います。だから、2クラスくらいだときっとちょうどいいのかもしれないのですけれども。

(西原会長)

これは教育委員会ですよね。ですので、ぜひ教育委員会に働き掛けていただいて、参加できる学校数が増えるようお願いしたいと思います。

(事務局：渡邊)

今のお話で言いますと、私どもも、なるべく年度が始まる前の早い時期に各学校にお声掛けをして、たくさん来ていただけるように早いうちから動き始めたいと思います。スケジュール組みや、視察などもありますので、そのように取り組んでいきたいと思っています。

(西原会長)

ほかにいかがでしょうか。健康スポーツについてはよろしいですか。

それでは、続いて競技スポーツについて、説明をお願いします。

(事務局：養田)

続いて競技スポーツについてです。資料3の1ページ、下から四つ目、競技スポーツの1番「ジュニア強化事業」から、2ページの上から二つ目になりますが、競技の6番の「障がい者スポーツ全国大会参加激励金支給」までをご覧ください。こちらが競技スポーツになりますが、この中で平成28年度の数値目標に対して平成28年度の実績が下回って所管課の評価がC以下になっている事業は、1ページの下から三つ目「スポーツ指導者講習会」の一つでした。平成28年度の数値目標、講習会開催数120人に対して実績が70人でしたので、これを踏まえて第Ⅱ期実施計画の数値目標については100人としています。

なお、一番下の4番の「全国障がい者スポーツ大会選手権派遣事業」から、次のページの上から二つ目の6番「障がい者スポーツ全国大会参加激励金支給」までの三つの事業については、前年度まで障がい福祉課の所管でしたが、今年度からスポーツ振興課に所管が変更されました。競技スポーツについては、以上です。

(西原会長)

ありがとうございました。競技スポーツについて、特に障がい者スポーツが入っているので、丸田委員からご意見があると思うのですが、ほかにいかがでしょうか。まず、丸田委員から何かありますか。

(丸田委員)

今年度から障がい者スポーツもスポーツ振興課に移管されたということで、この全国障がい者スポーツ大会とはどういうものかということをお話したいと思うのですが、これは、要は健常者の国体に準じた大会ということになります。ただ、ここで競技と位置づけられていますけれども、目的はまず競技に入るための登竜門的なもので、この全国障がい者スポーツ大会とさまざまな日本選手権と言われたりパラリンピックにつながるものに、実はかなり大きな空間があります。これからパラリンピック選手の育成ということも出てきますし、やはりここをステップにして、もしかしたら新潟市からもナショナルチームに選ばれつつある人間もいるのです。そういうところの応援というのは、やはり必要なのだろうと思っています。

先ほどの健康のところの県の障がい者スポーツ大会というものがありましたが、これは国体予選に準ずる大会なので、段々競技性を強くしていくと参加者が減っていくという状況があります。昔のこの大会というのは、パン食い競争とかいろいろなことを

やっていたのですけれども、やはり競技性を高めれば人が減るといったところもありますので、こういうところも含めて少しご理解をいただくとともに、私はスポーツ振興課に移ったというのは、非常にいいことだと思っています。

ただ、一つだけ抜かしてはいけないのは、やはりもともと障がい者というのは福祉とつながっているのです、スポーツ振興課が福祉と一緒にタイアップしないと、ここはマイナスになる可能性があるのです、ぜひそういった連携というものを、常に福祉とスポーツが連携して障がい者スポーツをやっていく。また、競技をやるときにも、これから多分いろいろな競技団体のところにも障がい者スポーツというものがつながっていくと思います。そのときに、やはりきちんと障がいのある人の状況というか、障がいと一口に言ってもいろいろな障がいがあるので、そこを理解していただくということが大事なのだと思います。恐らく、今、学校でもそういうところは先生も非常に苦労されているところもあると思いますし、本当に障がいがある人はこれからも増えますし、高齢者もこれからもっと増えていきますので、そういうところも踏まえたスポーツ振興というものを考えていただければと思っています。

(事務局：渡邊)

ありがとうございます。今年度から私どもも障がい者スポーツにかかわるようになって、やはり福祉の障がい部門との連携というのが本当に大事なのだなということを痛感しております。これから秋に、全国障がい者スポーツ大会が今年は愛媛県で開催されますので、そちらに行かせていただくのですけれども、やはり競技そのものよりも移動から現地でのケアなど、そこは障がい者の関係団体の皆様のご協力なくしてはとてもできないところですし、そういったところと一番つながっているのは、私どもの市役所の中では障がい福祉課なりの障がい福祉サイドですので、ここは本当に縦割りの行政がいかにか横の連携をとれるかということ逆に見られる部分なのかなということで、ある意味で試金石といいますか、試されているような部分もあるかと思っておりますので、ここはこのようにしたほうがいいのかというようなお話があれば聞かせていただければと思います。丸田さんにもいろいろとお世話になりますけれども、よろしく願いいたします。

(西原会長)

ありがとうございました。ほかに競技スポーツで何か。

(小野委員)

初歩的な質問です。ここにたくさん項目が載っていて、私が分かっていないだけなのかもしれないかもしれませんが、競技スポーツと健康スポーツを合わせたものですね。競技というのは、障がいといくつとおっしゃいましたか。競技スポーツとして上げている項目というのですか。

(事務局：渡邊)

6事業です。

(小野委員)

6事業ですか。

(事務局)

1ページの下辺り、四つ目のところから2ページの上の二つです。

(小野委員)

これだけが競技スポーツということですか。

(事務局：渡邊)

このカテゴリー分けというのは、「競技」、「健康」、そしてこれから「みる」、「支える」といろいろあります。それから「医科学・情報」もありますけれども、あくまでもある事業がどのカテゴリーに入るかというのは、どちらにも入ったり、二つ、三つのカテゴリーにも入るような事業もたくさんあるのです。ですけれども、各柱に一番近いといえますか、そういったところに仕分けをさせていただいている形です。

私ども市役所の中で、計画とかこういうものでよくあるのが、再掲といまして、このように柱が四つとか五つあって、一つの事業をここにも絡むから一ついれて、この柱にも絡むからまたその名前を載せて、そして「(再掲)」と、要は再び載せましたよと、そういう書き方をする場合もあるのですけれども、それをやると項目だけがたくさんになって、事業が多くあるような見え方になってしまうので、私どもは、これはそういうものはない形にして、一つの事業は一つの柱に、一番関連のあるところに寄せることによって事業数が重複しない形にして、なるべく事業名を見ていただくと全体が見通せるような、そういうつくりにしたということでこのような形にしています。

ですので、例えば障がい者スポーツにしても、競技だけではなくて健康やそういったものも絡みますし、やはり見るという視点もありますし、いろいろな視点があると思います。ですけれども、一番関連性が高いと思われる柱に位置づけさせていただいておりますので、仕分けをする中で、今回は競技スポーツの柱についているものが6事業ということになっています。もちろんこれ以外の事業の中には競技スポーツとしての性格を持っていない事業ばかりというわけではなくて、そこは、こういう計画のつくりの問題になりますけれども、そこはご理解いただければと思います。

(丸田委員)

私からも少し補足していいですか。私も、これを見たときにすごく違和感があったのですが、障がい者のこの三つは変だよねと見えると思うのです。例えば国体であれば、こ

これは全部県が一括でやるので、実はその中に新潟市も含まれているのですけれども、福祉の場合には県と政令市というのは同格で、市も単独チームを出すのです。ですのでそのように上がっていくし、多分、高齢者の「ねんりんピック」というものも高齢のほうでやっておられたりして、福祉ではこの政令市というのは県と同じ役割を担うけれども、スポーツの場合は県一括でやるのでここには上がってこないけれども、実際は新潟市の選手が県の一括でやっていることがたくさんあるので、そのように見えるかなと、私も同じように思ったので。

(小野委員)

そこまで深く思ったわけではないのですけれども、ありがとうございました。

(西原会長)

ほかにいかがでしょうか。

では、続けてみるスポーツについてお願いします。

(事務局：養田)

続いて、みるスポーツについてです。資料3では2ページの上から三つ目、これに関連する実施計画のページについては10ページになりますが、上から三つ目の「ドキドキ・ワクワクスポーツふれあい促進事業」から、中ほどの7番「日韓交流少年サッカーの開催」まで、こちらがみるスポーツとなっております。

この中で、所管課の評価がC以下になっている事業については、3番の「大会・合宿等誘致の推進」、4番の「氷上スポーツイベントの開催事業」、5番の「オリンピックムーブメント事業」、6番の「国際ユースサッカー」の4事業になります。3番「大会・合宿等の誘致の推進」における第Ⅱ期実施計画の数値目標は、平成28年度と同じ目標となっております。それ以外は、すべて現状を踏まえて修正しています。みるスポーツについては、以上です。

(西原会長)

ありがとうございました。みるスポーツについて、いかがでしょうか。よろしいですか。では、すべて終わってから、何かありましたらお願いします。

では、続けて支えるスポーツについて、お願いします。

(事務局：養田)

続いて、支えるスポーツについてです。2ページの中ほどから下段に支えるスポーツの柱がありまして、対応する実施計画は11ページになります。2ページの中ほどの支えるスポーツの1番は、「スポーツ施設の管理運営・整備」になっています。それから、7番の「スポーツボランティアの育成」までをご覧ください。

この中で、所管課評価がC以下になっている事業は、6番の「スポ柳都にいがた指導員養成研修会」と7番の「スポーツボランティアの育成」の2事業になります。両事業において

第Ⅱ期実施計画の数値目標は、平成28年度の目標と同じで、現状の実績よりも高い目標を設定しています。支えるスポーツについては、以上です。

(西原会長)

ありがとうございました。支えるスポーツについて、いかがでしょうか。

(速水委員)

8月23日の新潟日報の添付版に、鳥屋野潟南部の開発ゾーンの変更ということで、野球施設を新しく造りたいと篠田市長が言っていますという記事が出ていたのですけれども、この支えるスポーツの中の整備・改善の中で、情報収集というものよりも1歩も2歩も進んだような発表がされて、非常にいいことだとは思いますが、もしある程度説明できるようなことがあれば、課長から説明をいただきたいと。言っているのであれば。

(事務局：渡邊)

ありがとうございます。今、先週から大変注目を浴びている内容かと思うのですけれども、私がお話しできるのは、やはり新聞記事に載っている市長の発言、その域を越えることはなかなかできないのですけれども、まず、今回の球場の新聞記事の話の前提として、現在の小針球場と鳥屋野球場がどちらも築後50年前後ということで、非常に老朽化してきていて、まずそれを何とかしなければならないという、そういう意識が私ども市の内部にはずっとありました。これは何とかしなければいけないという中で、ただ、やはり今現在そこを利用されている団体の皆さんの利便性であるとか、そういったものもある一方で、それぞれの球場の周辺の住民の方から、やはり騒音や駐車場の問題といった苦情なども寄せられています。内部的には検討を進めていたといいますか、考えを巡らせていたところでありまして、私どもとしましては、とにかく古い球場をまず何とか改善しなければという、そういう意識があったわけです。そこでたまたま協議会のおっしゃっている場所が鳥屋野潟南部ということで、非常に注目の高い地区に案をあてはめてこられたということで、非常に脚光を浴びたところですが、今後の手続き的なところについては、新聞にも報道があるとおり、今、鳥屋野潟南部の開発のゾーニングの変更などというところから始めていかなければいけないので、手間のかかる作業ではあると思います。そこは、市長があのような形で申しておりますので、スケジュール的にどのくらいになるのかというのは明確には今言えませんけれども、これから検討を進めていくものと考えております。私としましては、本当に鳥屋野と小針の古い球場を何とかしなければいけないという意識を十分持っていますので、それに対する対策として今後考えていかなければいけないと思っております。

(小島委員)

今、速水さんから出たので1点。それこそ施設についてですが、以前からずっと言ってい

るのですけれども、この「みる」というキーワードはあっても「みせる」というキーワードがないというか、実際見せるにはどの体育館も、それこそアイスアリーナも、観客席がすごく少ないですね。実はこの金曜日、土曜日に仙台に行ってきて、昔の仙台市民体育館を使ったのですが、すごく広がったのです。広いだけではなくて、観客席がものすごく多いのです。あそこにもプロのバスケットチームがあるので、ボランティアの方にここがバスケットのホームなのですかと聞いたら、いいえ、新しい体育館のほうが広いので、そちらがホームですと言われました。仙台市には、こんな広い体育館に更に広い体育館があるのだと思ってすごく感動して帰ってきたのです。

実際、新潟市に戻ってみると、東総合体育館が観客席は多少入るし新潟市の体育館も入りますけれども、とにかくほかは見ると言われても見れないという状況がすごく多くて、多分まだないのでしょうけれども、いずれバスケットでもバレーボールでも何の競技でも、体育館でやるスポーツにたくさんの観客が動員できるような大きな施設をぜひ、新潟市なのか新潟県なのか分かりませんが、造っていただけるとありがたいなという要望です。

(事務局：渡邊)

ありがとうございました。今ほどおっしゃったのは、恐らく大きなアリーナのイメージなのかと思うのですけれども、その辺りについては、県が今、県立アリーナの建設ということで、先の6月県議会では県立アリーナの建設要望といたしますか、その請願・陳情が出ていたということで、それも採択されたと聞いています。県も新しい知事になられてどういう動きになるか私も分かりませんが、今後何らかの形で、議会でもそういう動きがあったわけですので、その動きを私どもも見ながら対応してまいりたいと思っています。

(西原会長)

新潟市の場合、もともとは見るための体育館というコンセプトはなかったというところが歴史にもありますので、一般市民のためということもあって、そういう意味では県立に期待はしたいですね。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、時間も押しているのですけれども、最後、スポーツ情報ネットワークと医科学支援についてお願いします。

(事務局：養田)

続いて、医科学・情報についてです。2ページの下から三つ、こちらが医科学・情報についてになっております。1番の「目指せオリンピック！医科学サポート事業」から3番の「スポーツ振興課ホームページ」までとなっております。所管課の評価については、すべてB以上となっております。

1番の「目指せオリンピック！医科学サポート事業」については、数値目標は平成28年度の目標と同じになっております。2番の「公共予約システムの運用」については、数値目標をパーセンテージから件数に変更しています。これは、施設利用者の母数が増えている中でシステム利用者数はそれに見合う伸びが見られないことから、現状に合わせて母数の増減にかかわらず利用者数を目標として設定するものです。3番の「スポーツ振興課のホームページ」については、件数の抽出方法が平成27年度と平成28年度で異なっていたということもありまして、抽出方法を平成28年度と同様とするために、それに合わせて目標数値を変更するものです。医科学・情報については、以上です。

併せまして3ページをご覧ください。3ページにつきましては、区のビジョンについて記載しております。これは参考という形で位置づけておりまして、区ビジョンまちづくり計画の第2次実施計画については、各区役所において進行管理をしていますので、今回、こちらの「スポ柳都にいがた」プランの実施計画において進行管理するものではありません。

以上、医科学・情報について説明させていただきました。

(西原会長)

ありがとうございました。医科学・情報について、何かご意見がありましたらお願いします。よろしいですか。では、実施計画全体で何かご意見等がありましたらお願いしたいと思います。

(阿部(潤)委員)

子どもを取り巻く運動状況について、少し意見を言わせてください。

先ほど早起き野球のチーム数が少なくなっていると。これは、これから小学校で経験していく子どもたちが恐らく減っていくことにより、益々チーム数が減るのではないかと考えています。それは、少年少女スポーツ大会の野球チームが減少していることから、私はそう思っています。ほかのミニバスケットやバレーボールはどうなのか分かりませんが、恐らく少子化も相まって、どんどんチーム数は減っていくのかなと思っています。加えて、いくら優秀な指導者がいても、子どもたちにとっての時間的なゆとりと、それから家庭における経済的なゆとりがないと、なかなか参加できにくいというような感じが感じられます。学校でも、やはりする子としない子と二極化が進んでいると感じています。

そういった意味で、今現在、各チームごと、種目ごとで管理も一貫しているのは当然だと思うのですが、子どもたちが帰って、ではその時間帯に大人が指導できる時間帯かという、それが難しいことから、夕方やあるいは夜に実施する。それによって今度は家庭の時間帯も変わってくるということで、それもだいぶゆっくりできると言えばできるのですけれども、ライフスタイルも変わるのでマイナス面も大きいと思っています。

そういった意味では、例えばバスケットボールだけですべて運営するのではなくて、バスケットボールとサッカーと野球が協働してうまく子どもたちを管理しながら時間をつくって指導していく。いわゆる一般的な総合型スポーツクラブといったものが進んでいかないと、子どもたちにとっては益々環境が厳しくなっていくのではないかと考えています。それぞれ各チーム、種目で頑張っていて、本当に素晴らしい指導者がたくさんいるのですけれども、そこで完結してしまうと、特に小学校は厳しいのかなと。中学はまだ部活で先生方が頑張ってくださっているのですけれども、小学校となるとそれは難しいのかなと考えています。

ぜひ、そういった意味で、何かサポートできれば、これは自主的にとなるとなかなか難しいと思いますので、何かしらの策を打って進めていくようなことが必要なのではないかと考えています。

(西原会長)

今、阿部委員から話がありました。もともと新潟市のこのプランの中では、例えば総合型クラブのことにも当然触れていこうかといったときに、既存でスポーツ振興会が各地区にあるので、それを基盤にしたらどうかという話もあったのですけれども、おっしゃられるようなこともあって、スポーツ振興会という考え方から変えていこうということも検討していくということでもいいのですよね。どうでしたでしょうか。確か文言がありましたよね。記憶に、振興会ではなくというものをどこかで見たような気がしますが、なかったでしょうか。

(事務局：渡邊)

すみません、今資料を持ち合わせていないのですが。

(西原会長)

私、どこかで見た気がして、文言だけかもしれませんけれども。

(事務局：渡邊)

私どもスポーツ振興課の仕事をやっていて、やはり子どもさんたちにこれからどうやってスポーツに親しんでいただくのか、学校を卒業してもずっと続けていっていただけるかということについても、実は教育委員会との連携というものがすごく大事だと思うのです。昔、我々、教育委員会にいたわけですけれども、それが市長部局に移ったということのメリットというのはある程度出ているのかなとは思っているのですけれども、逆に教育委員会側との連携というものも、そこは以前に比べると少し違うのかなというところもありますので、そこは今後いろいろな形で連携を図っていく必要があるのかなと思います。

(西原会長)

ありがとうございます。例えば総合型クラブなどでも、小さなユニットだと比較的つくりやすいのですけれども、新潟市となるとそれを網羅的にというのはなかなか難しいところも

あって、その辺、今後の検討かなと思っていますけれども。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。それでは、全体についてはこれで終わりにしたいと思います。

続いてですけれども、報告事項の1です。「新潟ヒルクライムについて」、事務局から説明をお願いします。

(事務局：中村)

それでは、「新潟ヒルクライム」と、もう一つカラー刷りのものがあると思うのですが、もう一つ「オリンピックデーラン」のチラシを一括で説明させていただきたいと思います。皆様方、本日、長時間にわたって白黒の資料を見ていたかと思うのですが、ここでカラーの資料を二つご用意しましたので、この二つを説明させていただきます。

まず「新潟ヒルクライム」です。来週の日曜日、次の日曜日、9月3日に西蒲区で開催されます。募集はもう終わったのですが、岩室から弥彦山の山頂まで自転車で一気に登るというイベントになります。約7.6キロメートル、早い人で20分強で駆け上がります。時速で言うと20キロ弱くらいでしょうか。駆け上がります。前回の参加者数が過去最高だったので、今回は若干下回りました。下回りましたが、県外からの参加者が今回過去最高の参加者数になりました。北は青森から南は鹿児島まで、全国から多数お越しただいて、岩室を満喫していただきつつ自転車で山登りをさせていただこうという、そういうイベントになります。

もう1枚は「2017オリンピックデーラン」というものです。これは、9月23日にあるのですが、今月の15日から申込受付を開始しておりまして、9月15日まで申し込みを受け付けております。これは、オリンピック、オリンピック出場選手が来て、市民の皆さんと一緒に走って、オリンピックを盛り上げましょうという、機運を醸成しましょうというイベントになります。今年は、スケートの小塚さん、これは今年の3月に新潟市のアイスアリーナで教室もしていただいたのですが、それから体操の田中さん、陸上の瀬古さんなどという形でオリンピック出場経験者の方に来ていただき、皆さんと一緒に走りましょうというものです。こちらにつきましては、参加費一人500円になっております。500円を払っていただき、オリンピックを見ていただくと、オリジナルTシャツとハンバーガーの無料券がいただけるという、大変お得なイベントになっておりますので、まだ申し込みを受け付けておりますので、委員の皆様方も、ご本人、もしくはお知り合いの方がいらっしゃいましたらぜひご紹介していただければと思います。

(西原会長)

ありがとうございました。今ほどヒルクライムとオリンピックデーランの事業の報告をい

ただきましたが、何かご意見、ご報告、こういうことで協力できるということがありましたらお願いします。よろしいですか。

最近、ヒルクライムが本当に盛況で、どんどん大きな事業になっていますけれども。よろしいですか。

全体を通してですけれども、せっかくの場ですので、今日の審議にかかわらず、いろいろなご意見がありましたらお話ししたいと思いますのですが、よろしくをお願いします。

(太田委員)

スポーツ推進ということだけでなくてもよろしいですか。

先ほど田中課長補佐もおっしゃったのですけれども、新潟の交通事情ということについては、やはりスポーツを推進するにも、やりに行くにも見に行くにも、この交通事情ですとか、いろいろなイベントの会場が点在している、そこをつなぐ交通システムの再考をぜひ市長にお願いしたいと思います。

(西原会長)

答えにくいと思いますが。

(太田委員)

お答えは大丈夫です。

(事務局：渡邊)

担当する課にも、もちろん市民生活の一部にスポーツも当然あるのだということで、それもよく考えたうえでの交通政策をお願いしますということで、私から担当課には話をします。

(西原会長)

ほかにいかがでしょうか。せっかくの機会ですので。

(小島委員)

私、たくさん言っているのですけれども、すみません。

資料3のスポーツ推進課でなくて各区役所のものについてです。この3月まで中央区の自治協議会にかかわっていたので、何となく区ごとということが気になったのですが、中央区が「えんでこ」のみで、ほかの区は割とスポーツにすごく力を入れていると思うのですが、スポーツ推進課からは、区に対して、もっとこういうことをやってとか、そういった意見を言うことはないのですか。中央区の、「えんでこ」もいいのですけれども、もう少しスポーツがあってもいいですよ。

(事務局：渡邊)

これについては、ほかの区もそうなのですが、主に中央区の区ビジョンに載っている事業ということで掲載してもらっているのですけれども、もちろん、区ビジョンに載っていない

でも、当然スポーツに関する事業はたくさん実施していると思います。ほかの区でも、やはり載っていないもので、ここに事業名が上がってなくてもスポーツに関する事業はあると思いますし、中央区ももちろんそうだと思います。ただ、たまたまこの区ビジョンに掲載していなかったということで、ここに上がっているのはこれだけなのですけれども、もちろんほかにはたくさんやっていると思います。

(小島委員)

でも、実際に自治協議会の会議などに出ている、福祉の話ばかりでなかなかスポーツというものが。ですので、区ごとのばらつきというか、65パーセントを目指すのであれば、ある程度、一番多いのが中央区ではないですか。一番多いのではなくて、西区が多いのでしょうか。でも、もっとぐいぐいいてもいいのかなと思いました。

(事務局：鈴木)

それから体育協会ですね。各区ごとに体育協会がありますので、その中でもいろいろな大会や、今ほど言われた西区であれば黒埼で元旦マラソン大会をやっているとか、そういうものは各区でやっておりますので。

(西原会長)

何となくマイクをまわしてしまいました。

では、せっかくですので、皆さまから、一言ずつよろしいですか。

(目黒委員)

感想というか、別にお答えは求めていませんけれども、先ほど速水委員からあった鳥屋野潟の南部ですけれども、個人的にはなぜ野球場なのだろうなという気がものすごくあります。鳥屋野と小針がなくなったのだろうけれども、緑と森の運動公園と白根ができていて、野球場というのはそれしか使えないのですよね。使ってもアメフトくらいしか使えないので、ボールパークという構想は面白いと思うのですけれども、野球場ではないだろうなという気がしています。

それから、ふと考えたのですけれども、アルビレックス、アルビレックスと言うのですけれども、新潟市に練習場を持っているチームというのはランニングしかないですね。アリーナなども、私は長岡にとられたと思っています。だから、県のトップが替わって市とも話ができるような状態になったと言っていますけれども、そういう意味でもう少し、例えばラグビーのワールドカップでも、新潟市がもう少し声を上げれば招致ができていたのではないかなと個人的には思っているので、南部の開発についても県ともう少しお話しして、いい具合に進めてほしいなと個人的に思っています。

それから、地域総合型のものも、やはりあそこにゾーンを造ってしまえば一つの拠点とな

るのだらうと思うのです。そこから各地域の地域総合と連携していけばいいと思うのです。やはり子どもは小さい頃からいろいろなスポーツをやったほうがいいと思っているので、そういう意味ではパイの取り合いではなくて、その中から広げていくような、そのようになってもらえばいいなという、単なる感想です。

(田村委員)

新潟市インディアカ協会です。

市民総合体育祭は、春と秋と、必ず2回出させていただいて、とても嬉しいのです。最初のころは秋だけ出たので、そういうグループもあるのではないかと思いますので、多分していらっしゃると思いますけれども、春も秋もどちらも出ているのだよと言われてやっと私たちも気づいて、いいのですかということで出させていただいたので、そうすれば出場数もたくさんになると思います。

それから、オリンピックデーランですが、出たいなと思いましたけれども、9月23日はお彼岸の中日で、うちは寺なので残念ながら出られません。

(野田委員)

野田文江と申します。

私は、障がい者水泳を中心にやらせていただいているのですが、昨日、市民水泳大会がありました。そのときに、国体選手は合宿に入れているので、国体の選手の方は少なかったのですけれども、その中で水泳協会から、野田さん、お前は俺のことを恨んでいるだろうと言うから、はあとと言いました。そうしたら、なぜ障がい者の人たちはこういうことをしてくれないのだらうと、思っはいません。全然思っはいません。ですが、会長は、俺の背中をズキンズキンと野田が突いたと最近思うということで、今年から、このスポーツ大会の意味合いを少し説明させていただいて、先ほど丸田先生がおっしゃったナショナルチームうんぬん、こちらのものと少しぐるぐるとなっていて、ここが土台になってそちらに行くということ。私たち水泳も同じでして、ジャパンパラリンピックというものが9月2日、3日ですか、そこに選手を3人ほどおいています。そして、「一番この子」という子が一人いまして、非常に楽しみにしているのですが、あの子が出るころ私はいないかなという感じがするのですけれども、でも障がい者の子どもたちも一緒に壮行会をしてくれたということで、私は、昨日は役員をしながら泣いて、泣きながらで役員としては失敗しましたがけれども、でもそのように段々皆さんと一緒にテーブルにいられる障がい者の人たちを理解してくれるようになってきたかなということと、先ほど先生がおっしゃった、やはり子どもたちの費用の関係、皆が皆出られるわけではなくて、やはりいろいろな状況の中で、力があっても費用が非常に厳しいという中で、どこからお金を出したらいいかということで、いつも丸田さんの顔を見て、

伺ってやっておりますが、費用のことはとても大切かなと思います。いろいろと考えていただいて、協力をいただきたいと思います。長くなってすみません。

(速水委員)

たくさん話したのでそれほどありませんが、二つお願いします。

一つは、スポーツ振興課は、やはり新潟市のスポーツ振興のための一番トップというか、そこをトップとして裾野にいくですとか、あるいは課に情報を流したり、この連携を努めたりしていただきたいということが一つと、先ほど課長が冒頭におっしゃいましたように、予算要求、頑張ってください。

(丸田委員)

では、少し障がい者スポーツから離れて、先日、実は私ども障がい者の協会と医療福祉大学でタイアップして指導者の養成ということをやっていたいて、市の担当の方にも出席いただいて、非常にありがたいと思ったのですが、今、国のスポーツの基本計画の2次でも、大学というものが一つ大事なキーワードになってきていると思うのです。

我々の新潟市を見たときに、実はこのスポーツをやるときに素晴らしい大学があるのです。やはり医療福祉大学というのは、名前は医療福祉ですが、半分はスポーツ大学だろうなと思っています。それだけの人材と場所、そういうものがあるので、西原先生が大変になるのかもしれませんが、やはりその環境を上手に使うということが、もしかしたら新潟市のスポーツ振興に大きな役割を果たすのではないかなといういろいろタイアップしてみて非常に感じたところですので、この大学と行政が連携するというのも非常に大事ではないかなと感じました。

(阿部(潤)委員)

私は、やはり子どもたちにもっとたくさん運動に親んでもらいたいと思っています。先ほどの話と少し重なるのですが、やはり親御さんたちもなかなか時間的に経済的に厳しければ、子どもはふれあう時間がなくなっているのが現状かと思っています。地域で遊んでいても、公園の使い方が悪いとか、やかましいとか、私たちに注意しろという電話がよくきます。どうぞそこで注意してくださいと話しはするのですが、それも言いづらいような状況が今あるということです。子ども食堂とか、そういうところに行っているお子さんが運動にどれだけ行けるかという、やはり難しいのかなと。そういうことも含めて、より子どもたちの環境がもう少しゆとりをもてたらなと思っている次第です。こことは少しかけ離れた大きな話題ですが、以上です。

(阿部(美)委員)

中之口幼稚園の阿部と申します。私、ここにいて何を話せばいいのかといつも思いながら、

皆さんの活発な議論を聞かせていただいております。

市民の二人に一人が週1回以上スポーツをするという割合を65パーセント以上にするという指標なのですが、私はその中に入っていないなと思いながら今日参加させていただいてお話を聞かせていただいております。子どもたちも、体力の低下ということが言われて随分経ちます。それぞれの学校もそうでしょうけれども、幼稚園の中でも独自の取り組み、体力の向上ということで取り組んではいるのですが、なかなか職員自体の研修の機会も少なかったり、若い職員などは具体的にどうすればいいのかということが分からないというところもあるのかなと思います。市民のスポーツ環境を整えていくという意味で、それを小さいころから支えていく私たち教職員の具体的な研修の場というものも与えていただけるとありがたいと思っていますところでは。

それからもう1点なのですが、あまり関係ないかなと思うのですが、先ほど県立アリーナの建設の予定があるとかないとかというお話がありました。新しい施設ができるというのはとても素晴らしいことだし、ぜひ実現できるといいなと思っていますのですが、先日、ある大きな研究会がありまして、新潟市の体育館が会場でした。千何百人の先生方が集まる大会だったのですが、非常に施設が古くて、そして出入りの入口や階段も非常に狭くて、全然違う話で申し訳ないのですが、今ここで大きな地震があったらどうなるのだろうというところで、少し心配になった次第です。そういったことも含めて、スポーツ環境、それからスポーツ施設は災害があったときには避難所になることもたくさんありますので、そういうことも含めて施設の改善をお願いできればと、この場を借りてお話しさせていただきました。ありがとうございました。

(西原会長)

ありがとうございました。皆さんから、一番最後に審議会らしく、大所高所からいろいろなご意見をいただきましたので、ぜひまた、これはすぐにできるものではないのですが、意見を反映していただければと思っています。

では、私にいただいた議事は以上ですので、事務局にお返ししたいと思います。

(司会：寺崎)

円滑に会議を進行いただきまして、ありがとうございました。本日いただきました貴重なご意見を、今後の業務に活かしながら、第Ⅱ期の実施計画に沿った積極的な取り組みを進めてまいりたいと思います。委員の皆様には、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

以上をもちまして、平成29年度第1回新潟市スポーツ推進審議会を終了いたします。